



実りの秋～読書のすすめ～

主幹教諭 相場 雅子

朝晩は、ずいぶんと涼しい風が吹くようになりました。季節は、秋へと確実に進んでいるようです。「芸術の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」などと言われるように、何をするにもよい季節となりました。

さて、10月は読書月間です。今年度の4月に行われた全国学力学習状況調査の質問紙調査に、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）」という質問がありました。関町北小学校の6年生の結果で一番多かった回答は25.5%で「30分以上、1時間より少ない」でした。次いで多かった回答は23.5%で「10分以上、30分より少ない」、同じ数値で23.5%で「全くしない」でした。この結果から、少しの時間を使ってでも本を読もうと、読書に前向きに取り組む子供が多いという印象を受けました。しかし、全く読まないという結果もあり、今の子供たちは忙しいのではないかも感じました。

「折々の遊びとまはある人のいとまなしとて書（ふみ）よまぬかな」という本居宣長（もとおりのりなが）の言葉があります。暇がある人も時間がないと言って、本は読まないものだという意味だそうです。昔も今と同じことが言われていたようです。テレビや楽しい遊びがたくさんあり、情報を手に入れるために様々な媒体を使用することができるのですから、「読書離れ」が起きていても不思議なことではありません。実は私も「時間がない」と

と言って読書をしない生活でした。しかし、ある日、関町北小学校の宝島図書館で「獣の奏者」（著者：上橋菜穂子、出版社：講談社）を手に取りました。図書館の一番下の本棚に、ずらりと並んだ分厚いハードカバーの本の中の1冊。今まで読んでみたいと思いつつ、「あの分厚さにチャレンジできるか...」と怯んでいましたが、手に取ってページを開いてみると、あっという間にファンタジーの世界に引き込まれました。美しい情景を表す言葉、主人公の心情の変化、さらには登場人物の顔や声色等までも、自分の読み取ったイメージで世界観を広げながら楽しむことができました。そして、読み終わったとき「読み切った」という何とも言えない達成感を感じました。そして、次のシリーズを借りようと楽しみに図書館へ向かうと、すでに読みたい本が借りられている時もありました。「ああ、私と同じ本を読んでいる人がいるんだ。」と嬉しく思いました。宝島図書館を利用している人で、同じ本に興味を持っている人がいると思うとワクワクしました。読書をしたからこそ、このような体験ができたのだと思います。

今年度の関町北小学校の校内研究は主題を「思考力・判断力・表現力等の育成～読む活動を通して自分の考えを表現する工夫～」と設定して、日々の授業改善に取り組んでいます。国語科の教科書には、各学年に素晴らしい文学作品が教材として掲載されています。「おおきなかぶ」「スイミー」「ちいちゃんのかげおくり」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」「やまなし」等、保護者の皆様も小学生の時に学習したものが、何十年たった今も子供たちの教科書にあるのです。学習を通して、文学作品の面白さに触れ、日々の読書活動に繋げるきっかけになったらと願っています。

今年度の関町北小学校の校内研究は主題を「思考力・判断力・表現力等の育成～読む活動を通して自分の考えを表現する工夫～」と設定して、日々の授業改善に取り組んでいます。国語科の教科書には、各学年に素晴らしい文学作品が教材として掲載されています。「おおきなかぶ」「スイミー」「ちいちゃんのかげおくり」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」「やまなし」等、保護者の皆様も小学生の時に学習したものが、何十年たった今も子供たちの教科書にあるのです。学習を通して、文学作品の面白さに触れ、日々の読書活動に繋げるきっかけになったらと願っています。

大人も子供も「やりたいことと、やらなければならないこと」がたくさんあり、忙しく過ごしている日々かと思えます。1日の時間は限られていますが、使い方は工夫次第です。秋の夜長、ゲームやテレビ、スマートフォンから目を離して、家族で読書タイムはいかがですか。

